

生誕100年文学者の歩み 中原中也・井上靖

(展示資料)

県立中央図書館では、生誕100年文学者の歩みということで「中原中也」・「井上靖」を取り上げてみました。さて、今から100年前（1907年）とはどんな時代だったのでしょうか。

中原中也、井上靖の生まれた1907年（明治40）は、日露戦争（1903～1904）から2年後、国内では、足尾鋳山や別子銅山で暴動が起こり、軍隊が出動しています。文化の面では、1906年（明治39）に島崎藤村の『破戒』を契機として、自然主義が一つの文化運動の中心となりました。翌年には自然主義の作家である田山花袋の『蒲団』が発表されています。その2年後、1906年（明治39）には「新劇」が誕生し、小山内薫と二世市川左団次は自由劇場を創始しました。明治末期から大正デモクラシーに象徴されるような新しい文化が華を開かせようとしている時でした。

【中原中也】 展示資料リスト

書名	編・著者	出版社	出版年	請求記号
1 新潮日本文学アルバム 30	中原中也	新潮社	1985年	910.26/SH61/30
2 中原中也「山羊の歌」全訳	太田静一著	鳥影社	1996年	91152/チ2
3 中原中也「在りし日の歌」全訳	太田静一著	鳥影社	1997年	9156/チ1
4 中原中也アルバム	中原思郎編	角川書店	1972年	91152/チ4
5 原文中原中也詩集	中原中也著	審美社	1976年	91156/N33
6 山羊の歌	中原中也著	麦書房	1970年	91156/N33
7 千葉県庁新庁舎建設誌	千葉県総務部管理課編		1997年	C526/4

【中原中也】 略年譜

1907年（明治40）	四月二十九日、山口県吉敷郡山口町大字下宇野令村第三百四十屋敷に生まれた。柏村謙助・フク夫妻の長男である。父は医師。
1920年（大正9）	「婦人画報」「防長新聞」に投稿した短歌が入選。このころから読書欲が起こり、次第に学業を怠けるようになる。
1924年（大正13）	長谷川泰子と同棲。富永太郎と親交を結んだ。
1925年（大正14）	富永太郎の紹介により小林秀雄と知る。
1927年（昭和2）	河上徹太郎と知る。音楽グループ「スルヤ」に近づく。
1928年（昭和3）	「幼なかりし日」。小林秀雄の紹介により大岡昇平と知る。
1931年（昭和6）	「羊の歌」。東京外国語学校専修科仏語部入学。
1932年（昭和7）	ノイローゼ状態となり、強迫観念に襲われるようになる。
1933年（昭和8）	「帰郷」「少年時」などを季刊「四季」に発表。「凄まじき黄昏」「秋」を「紀元」創刊号に発表。
1935年（昭和10）	「春と赤ん坊」「雲雀」を「文学界」に発表。「青い瞳」を「四季」に発表。
1936年（昭和11）	「含羞」を「文学界」に発表。「ゆきてかへらぬ」を「四季」に「一つのメルヘン」を「文芸汎論」に発表。
1937年（昭和12）	千葉市の中村古峽診療所に入院。「月光（その一）」「月光（その二）」を「文学界」に発表。『在りし日の歌』原稿を清書。結核性脳膜炎を発病し入院、三十歳で永眠。

(新潮日本文学アルバム30 中原中也 新潮社編一部抜粋)

【井上 靖】 展示資料リスト

書名	編・著者	出版社	出版年	請求記号
1 新潮日本文学アルバム 井上靖		新潮社	1993年	910.26/SH61/48
2 獵銃 鬪牛	井上靖著	新潮社	1978年	9136/157/1
3 戦国無頼・風林火山	井上靖著	新潮社	1973年	9136/157/5
4 しろばんば	井上靖著	学習研究社	1985年	9136/157/1
5 北の海	井上靖著	学習研究社	1985年	9136/157/3
6 あすなる物語	井上靖著	学習研究社	1985年	9136/157/4
7 現代日本文学アルバム		学習研究社	1978年	91026/G34/15
8 私の歴史小説三編	井上靖著	講談社	1977年	9136/157
9 孔子	井上靖著	新潮社	1989年	9136/157

【井上 靖】 略年譜

- 1907年（明治40） 北海道石狩国上川郡旭川町第二区三条通一六ノ二の旭川第七師団官舎で軍医井上隼雄・やゑの長男に生まれる。
- 1910年（明治43） 父母のもとから郷里湯ヶ島に預けられ亡曾祖父潔の妾で祖父として入籍していたかゝのに育てられる。
- 1929年（昭和4） 大村正次主宰の詩誌「日本海詩人」に井上泰の筆名「冬の来る日」を発表。
- 1935年（昭和10） 遠縁のふみと結婚。
- 1936年（昭和11） 「サンデー毎日」の「長編大衆文芸」に応募した「流転」が第一回千葉亀雄賞を受ける。大阪毎日新聞社編集局に就職。
- 1949年（昭和24） 「獵銃」「鬪牛」を「文学界」に発表。
- 1950年（昭和25） 「鬪牛」により第二十二回芥川賞を受賞。
- 1951年（昭和26） 毎日新聞社を退社。「ある偽作家の生涯」を「新潮」に発表。
- 1953年（昭和28） 「あすなる物語」を「オール読物」に「風林火山」を「小説新潮」に連載。
- 1954年（昭和29） 「あした来る人」を「朝日新聞」に連載。
- 1956年（昭和31） 「氷壁」を「朝日新聞」に連載。
- 1957年（昭和32） 「天平の躉」を「中央公論」に連載。
- 1958年（昭和33） 『天平の躉』により芸術選奨文部大臣賞を受賞。「楼蘭」を「文芸春秋」に発表。
- 1959年（昭和34） 「敦煌」を群像に連載。芸術院賞を受賞。
- 1960年（昭和35） 「しろばんば」を「主婦の友」に連載。『敦煌』『楼蘭』により毎日芸術大賞を受賞。
- 1963年（昭和38） 「楊貴妃伝」を「婦人公論」に連載。
- 1964年（昭和39） 『風濤』により読売文学賞。「夏草冬濤」を「産経新聞」に、「後白河院」を「展望」に連載。
- 1966年（昭和41） 「おろしや国酔夢譚」を「文芸春秋」に連載。
- 1968年（昭和43） 「額田女王」を「サンデー毎日」に連載。「西域物語」を「朝日新聞」に、「北の海」を「東京新聞」に連載。
- 1969年（昭和44） 『おろしや国酔夢譚』により日本文学大賞。
- 1976年（昭和51） 文化勲章を受章。
- 1981年（昭和56） 「本覚坊遺文」を「群像」に連載。
- 1982年（昭和57） 『本覚坊遺文』により日本文学大賞を受賞。
- 1987年（昭和62） 最後の長編「孔子」を「新潮」に連載。
- 1989年（平成元年） 『孔子』により野間文芸賞を受賞。
- 1991年（平成3年） 八十三歳で死去。

（新潮日本文学アルバム48井上 靖 新潮社編一部抜粋）